

和名倉百年の森

wanagura hyakunen no mori

NPO 法人百年の森づくりの会

2014
5.1

27号

巻頭言……1 / エコサロン冬の講座報告 特別上映会「山岳映画への誘い」開催……2 /
和名倉森づくり報告……3-4 / 福島の森の再生への一歩……5-6 / 長瀬苗畑の作業報告……7 /
年間スケジュール……裏表紙

森林の放射能物質除染と再生の必要性

理事長 坂本和穂

あの東日本大震災から既に三年が経過した。死者一五八三四人、行方不明者二六三三人、そして現在もなお二七万人が避難生活を余儀なくされている。

読売新聞が三月に実施した「原発事故避難者に対するアンケート調査」によると、復興のスピードについて「遅れている」と回答した人が実に八三%にのぼっている。改めて大震災の悲惨さを痛感するとともに遅れている復興の加速と福島第一原発事故の収束に国を挙げて全力で取り組まなければならぬ。

その中でも緊急の課題は、放射性物質の除染であろう。同じアンケート調査によると、除染について国や自治体の取り組みに「満足していない」と答えた人が福島県で七二%であった。

その理由としては住宅や公園・校庭だけでなく「森林も除染すべき」と徹底した対応を求める意見が目立っている。

当然のことであろう。放射性物質の付着した広葉樹の葉が落ちると線量が上がり、それらが堆積して森林土壌へしみこんでやがて生活圏に流出する恐れがあるからだ。環境省の方針は、人の健康保護の観点から住宅、農用地等に隣接する森林の林縁から約二〇mの範囲を優先的に行うことにし、落ち葉等の堆積有機物の除染費用を交付している。

また、生活圏以外の方が日常的に立ち入

る森林、すなわちシイタケ等を栽培するほだ場等については、その場所と周辺二〇mの範囲で同じく落ち葉の除去を行っている。

原発事故でた汚染土等を保管する中間貯蔵も漸く福島県の双葉町や大熊町などに建設することが決まり、除染が進むと期待する声も高まっている。

一方、福島県は昨年度から「ふくしま森林再生事業」をスタートさせ、放射性物質の低減・拡散防止と森林整備を一体的に行う事業に取り組んでいる。

四月から避難指示区域を解除された同県田村市周辺では、除染間伐を積極的に進めているが、伐採後の植栽までには手が回らず、そこで当会が協力して伐採跡地に急遽、百年の森づくりの苗を植えることにした。

本年四月六日に当会員とボランティア団体各位、総勢五〇名の参加を得て既に昨年十二月に植樹地ちかくに仮植してあったブナ（一七年もの）二七〇本、ポット苗一〇七〇本を植樹した。折から、悪天候で粉雪の舞う中の作業であった。

ところで森林の林縁から二〇m以遠の森林全体の除染についてはどうか。

環境省と林野庁が連携して、住民の安全・安心を確保するため、今後森林から生活圏への放射性物質の流出・拡散の実態把握をした上で適切な防止対策を講ずる方

針で、その具体的な取り組み内容として次の二点を挙げている。

I 住居等に隣接している森林の林縁から二〇m以遠の下層植生が衰退している箇所について、放射性物質の流出対策の効果や流出の影響等を調査するため、数箇所において木柵工の設置等試行的な放射性物質の流出・拡散防止対策事業を実施する。

II 林縁において風向計、連続自動線量測定装置を設置し、風向・風況による線量変動の調査、ダストサンプリングによる飛来物質の放射性濃度の測定を実施する。

未だ調査・研究の段階にあり、先行き不透明感なきにしもあらずであるが、くれぐれも後手後手の「お役所仕事」にならぬよう切に望みたいものである。

いうまでもなく日本は世界有数の森林国で、国土に占める森林の割合が六七%と全面積の三分の二が森林である。

このかけがえのない森林を決して荒廃消滅させることなく子々孫々に引き継いでいくことが、国の使命であり、我々の責務でもある。

「継続は力なり」の諺もある。百年の森づくりの会は、これからも心を新たに森林の再生に邁進していきたい。

エコサロン平成25年度冬の公開講座 報告 特別上映会 「山岳映画への誘い」開催

副理事長 小林 公彦

今回のエコサロン冬の講座では、百年の森づくりの会の創設当初から深く関わっていただいでおり、アマチュアカメラマンとしてご活躍の山岳映画サロン代表伊藤弥八さんの特別上映会を開催しました。

伊藤さんは、国内では北アルプスなど日本各地の山々、また海外ではネパール・インド・パキスタン・チベットなど30回以上の登山歴をお持ちになり、数々の作品を撮り続けています。毎年東京の豊島公会堂で「山岳映画の集い」を開催し、アマチュアカメラマンが撮影した作品を披露しています。この映画会はいつも盛況で立見が出るほどの参加者が集まります。

今回の冬の講座では、伊藤さんの数ある8ミリ映画作品の中から、海外・国内の選りすぐった作品を上映しました。

一部・「和名倉百年の森」世代を繋げ百年の森づくりの会

二部・ヒマラヤトレッキング「悠久の山なみ」

三部・「曾遊の山」燕岳

一部は、百年の森づくりの会がスタートした1997年荒川最大の水源林で水の山といわれる和名倉山への植林のため、山道（ルート）づくりから13本のブナの苗木を初めて植栽するまでの記録のほか、和名倉山仁田小屋の建設、三峰山の太陽寺裏山の植林、秩父最西部の中津川山吹沢県有林伐採地での植林、そして2007年に400名の参加を得て1100本の苗木を植栽した長瀬宝登山での植林などの記録を綴った作品で、活動に参加された方々の生き生きとした姿が映し出されており、当時の想いが感慨深く感じられる映像でした。

二部は、海外トレッキングで撮影された中から2012年ネパール・チエルドピークトレッキングの作品を選びました。このトレッキングには、当会の会員で活動いただいている並木利夫さんも参加していました。ヒマラヤ独特の大きなシヤクナゲの木が赤やピンク色に染まり、

満開の花を見て歓喜の声をあげる参加者、威容を誇るジュガールの悠久の山なみなど、一度は足を運びたくなる雄大な風景の数々が映っている作品でした。

そして三部は、一昨年8月燕岳で急逝された故内藤勝久氏を偲んで、燕岳の作品を選んでいただきま

した。燕岳の四季の表情が映し出された作品で、その映像には山を愛する人々が集い、ともに憩い、語り合う々の笑顔があり、燕岳山荘のご主人が奏でるホルンの響きとともに



に山の素晴らしさが滲み出ている作品でした。
伊藤弥八さんの作品の素晴らしさは映像だけではなく、ゆつたりとしたご本人のナレーションがあるからこそだと思います。ナレーションの語り口を聞かれた方の多くはききと心地よい気分になったと思います。
またいつの日か上映できる機会が持てることを楽しみにしたいと思います。

2013年度下半期

和名倉山森づくり報告

和名倉山森づくり事業担当 高岡 正彦

2013年度上半期

3月30・31日 仁田小屋開き

13名参加。資材の荷揚げ。

5月25・26日 第32回植林ワーク

9名参加。仁田小屋回廊修復。鹿よけネット修復。ブ

ナ26本植林。

10月26・27日 第33回植林ワーク

26日午前中まで台風の影響がある予報があったので、予定を大幅に変更しました。26日の午後は参加者（5名）で鮫沢へレポート（大聖沢手前）の林道整備のみしました。それでも高

岡車以外は入れそうに無い。この日は旧大滝小学校三峰分校に

宿泊することになりました。

27日朝、暗いうちからスター

ト。快晴（満天の星）。大聖沢

の先からカバアの頭がとっても美しい。大洞沢の水量は多い、仁

田小屋沢も水量は多い。仁田小屋の頭下のネットが半分以上倒



和名倉は紅葉が美しい



ネットの修復

れていたものでそれを修復。2時間程度の作業。

松葉沢の頭にて、鹿の食害調査。何度も紹介していますが、益々やばい状況。とりあえず個々のネット張りをしています。効果はご覧のとおり一定程度あります。



松葉沢の頭の立ち枯れ



ネット巻きの効果



今回の参加者。ちょっとさびしい

11月22・23日 仁田小屋じまい

いずみ高校山岳部員8名を含む16名の参加。23日は荷揚げと

仁田小屋での作業。荷揚げには何といっても高校生が頼りになります。女子山岳部員も2名参加しました。巻き割りは中々うまくいかず苦勞していましたが、楽しんでいました。



丸太づくり・巻き割り



荷揚げ



鹿よけネットの準備



樹皮を剥かれたシラビン



和名倉山頂へのネットの荷揚げ



山頂付近のシラビンの立ち枯れ



旧三峰分校



三峯神社への道

実際29日は雪は解けていましたが、落石が頻繁に起きる状況でした。

2月23日 豪雪 報告
2月15日の豪雪で秩父地方は孤立状態になりました。1週間後のようやくは入れるようになります。偵察に行きました。

▶和名倉山頂



▶仁田小屋前にて



鹿よけネット張り

▶雲取山 遠望



▶仁田小屋沢



▶雲取林道絞沢橋なだれ跡



▶仁田小屋



3月15日 仁田小屋偵察 報告

偵察の結果、予定していた仁田小屋びらき(3・29〜30)は中止とした。

福島県の森の再生への一歩

守谷 裕之

高校時代の山岳部から安達太良山周辺に通い続けて43年間、毎年正月は山の温泉宿に泊まった。それが福島県原野で途絶えた。僕にとって福島は故郷でもある。その福島に何か出来ないかという思いがあった。気仙沼で百年の森づくりの苗を植えようと計画を立てたが頓挫してしまった。そんな時たまたま朝日の夕刊を見た。「放射線量 森林整備で低下 福島 間伐で一石二鳥」というタイトルが目にとまった。早速、田村森林組合の吉田森林整備課長に連絡を取り「植えても良い」という返事を電話で貰った。初めての視察の時、田村森林組合事務所の近くに常設の線量計があった。0.1 μ Sv/hを表示していた。川口の2倍である。車に乗って10分程で植栽地に着くと0.297 μ Sv/hもあった。山の中はかなり高いことが分かった。周りをみるとブルーシートで覆っている箇所が所々見える。森の除染作業で集めた枯葉や表土を集めて保管しているがその行き先がない為置いて有る。これが昨年の10月18日の放射線量であった。それから半年後の4月6日に参加された一般参加の小林さんは放射線測定器を持って参加した。その時の感想は「意外に忙しくて線量を測定している時間がありませんでした(笑) 作業が終わって帰

るときに思い出してバスへ戻る道すがら測定できたのですがスギの植林地の林床近く落ち葉がたまつた道端の地表近くで写真の通り0.25 μ Sv/h前後でした。あまり長い時間測定できなかったのですが最大値は0.26でした。バスの車内でも高速走行中見ていたのですが郡山ジャンクションの手前で0.1を超えた地点がありました！車内でぐんぐん数値が上がっていきのはやはりビックリですね」という感想を頂いた。この日の事務所近くの線量計は0.09を示していた。半年もすると若干ではあるが下がっている。子供たちと一緒に本来なら植えたいと考えていたら、友人に「除染作業をしている現場に子供を連れて行くなんて、何を考えているのだ。」と諭された。木を植える事ばかり考えている自分に気づいた。森林組合の人達はここで毎日働いている。国が出した個人被曝線量推計によると田村市の住人は年間農業従事者は1.2ミリSv、林業は2.3ミリSv、高齢者0.8ミリSvと林業者は高いことが分かった。(朝日2014/04/18)国が打ち出している年間被曝線量は1ミリSvである。これが守れないからと基準を下げるという話があるが何を考えているのか理解できない植栽地は伐採する前、太いナラの木が点

在していた。その切り株から勢よく萌芽している。福島県ナラはシイタケの原木として最高であると言われている。川口市心身障害福祉センターわがや園で栽培しているシイタケは大きくて厚みもあり焼いて食べると他の物は食べられなくなる。聞いて見ると福島県からほだ木を取り寄せていると教えてくれた。切り株を見ると直径70cmはざらにあった。その間に植樹するように吉田さんから言われた。広さは0.8ha奥は急斜面で奥行きは200メートルある。植える木は広葉樹である。日本の山は放っておいても時間が経てば元に戻る復元力を持っている。植樹をするという事は単にそれらを早めるだけのものである。オーストラリアにおいては日本と比べると気候や地質が違い簡単に森を維持することが出来ない。「森林官(フォレスト)」を配置して管理にあたらなければならぬ」と法律で決まっている。「森林官」になるのは難しく、とても高い地位と見なされている。(里山資本主義から抜粋) 植栽地は地主さんのものであり、個人では管理できないから森林組合に委託している。組合の人は森を育てるプロであり、一日に1000本のスギの苗を植えたことがあると話してくれた。今回は秩父の苗畑からポット苗を全部で1350鉢、ブナの苗木は280本、合計1630本を12月9日に一旦仮植し



て福島県の空気に慣らさせました。残念ながらカシ類280本は福島県の冬を越すことが出来ず葉が白くなってしまいました。バスで来る人数は42名、前日から準備に当たっているスタッフは9名、総勢51名で1350本を植えることになる。一人当たり26本を3時間で植えるので初めての人はきついかもしれません。6班の班体制を作り班長が教える形をとった。木を植えたくて仕方ない人たちの集団サポーターズクラブ会員が6班中5人の班長を占めた。力強い応援が来てくれました。前日には田村森林組合の方で準備してくれた目印の割り箸にピンタのリボンを付けたものを植えるポイントに刺した。それだけの準備をしたにも関わらず当日



はばたつてしまった。一番奥の6班とその手前の5班の分のポット苗を植える場所まで運ばなければ直ぐに植樹出来ないことが分かった。重たいポット苗が6鉢、トレーに入っている。それを何回も200メートルの山道を往復するのは相当きつかった。ブナを植える1、2班は林道が中央にはしりそこに苗木が置いてある。植える場所も緩やかな斜面である。しかも前日に重機で穴を掘ってあるからスコップで掘る必要がない。当日は天候が不安定で朝方雪が1センチ程積もった。何とか晴れてくれたが直ぐに曇り終いには雪が降り出した。風も出て来てやみそうもないと判断して中止とした。2時間ぐらいは作業が出来たが相当数のポット苗が植えきらず残ってしまった。1、2班のブナは植え終わることが出来たので良かった。残ったポット苗は森林組合の方で植えてくれるこ

とになった。百年の森が中心に進めなければならぬ植樹だが田村森林組合におんぶに抱っこである。ボランティア団体の存在意義は広く市民に呼びかけ一人でも多くの人に森づくりの体験をしてもらうのがねらいでもある。今回は「放射能に汚染された福島県の森の再生」というテーマが付いている。

森林の除染は全く進んでいない。森林の除染で費用が交付されるのは家屋などから約20メートル分に限られている。作業から出た廃棄物は捨て場所がない為に家の近くにまとめてシートをかぶせるしかない。その移動先の中間処理施設が無いからである。ここでも原発から出た放射性汚染物質は処理できず溜まっている。森に降り積もった放射性物質は高さのある木の葉や枝、樹皮などに重層的に付着している。山の除染まで手が回らないのが現状である。

それに対して福島県は手をこまねいている訳にはいかず、県独自で森の除染活動を始めた。木を切ることで線量を下げ、その間伐材は樹皮を取り除けば問題なく建築材として使える。吉田さんが資料として福島民報新聞2014年3月5日版を送ってくれました。その中で森の除染を進める取り組みが紹介されていました。

〈効果的な手法検討〉

県と広野町は生活圏森林の効果的な除染手法を検討するため、町内で実地試験を開始した。清浄な土が入った土のうを地面に敷き詰め、放射線を遮断する手法だ。作業員

の安全確保と除染作業の迅速化につながる。土のうは時間経過とともに腐食が進み、堆積物と混ざって地面と一体化する。実地試験では、厚さ約10センチの土のうを約200平方メートル敷き詰めた。線量低減などに大きな効果が認められれば、国に対して除染技術に選定するよう求める方針。



〈森林賠償見直し立たず〉

東電「田畑との整合性図る」

森林賠償について東京電力は当初、平成25年度9月から受付開始を予定していた。ただ、田畑賠償との整合性を図るとして、現在も見直しは立っていない。

請求額約13億2400万円に対し、支払額は約6億9400万円(約52%)にとどまっている。森林の土地や立木に関する所有者への財物賠償は国、東電からの基準が示されず、さらに進ん

でない。
・森林主要事業である森林整備(間伐、下刈りなど)の実施面積は、原発事故発生前年の22年度(約12500ヘクタール)と比べて23年度は5割、24年度は4割減少した。賠償が進まないことで、林業復興への遅れが懸念される。

人災である原発事故を進めた国と東電は責任を取らず地元が頑張った初めて動き出す始末である。枝葉に付着したCs(セシウム)は土壌へ落ちて行く。山の中は放射線量が高く仕事もなかなか出来ない状況にある。山は水源でありCsが地中深く埋り浸透して澤に流れ出る。いくら家の周りを除染しても山域は広くCsは山に多く存在している。東京近くに住んでいると放射能の事はとりあえず考えないで済む。福島の人たちは毎日その中で暮らしている。森林で働く人たちは線量の高いところで働かざるを得ない。被爆労働者でもある。たった一日だけであるが福島の大なる山林のほんの一部に木を植える事が出来た。仲間が福島を忘れてはいけないという。家族の絆を引き裂かれ生活環境を破壊され未だに狭い仮設住宅に押し込められている現状をどう見るか。除染も思うように進まず戻ったところで放射線量を気にしながらの生活が続く。子供たちへの影響は計り知れないものがある。それでも、福島で発電し東京へ送り続けている。どう福島と向き合うか始まったばかりである。それをどう継続してゆくか問われている。

長瀨苗畑の作業報告

常務理事 野澤 和雄

第4回常務理事会(2013

年)でへ荒川水系に1000の百年の森をという内藤前理事長の号令のもと、育成を始めた長瀨の苗畑の苗(犬樫、小檜、楓、樺、檜)が大きく伸びて移植先の検討がされてきましたが、ようやく福島県田村市に決定いたしました。

12月1日(日)

参加者 小林、高岡、守谷、野澤

苗畑明け渡しの準備作業

苗畑の地主さんの都合により、明け渡しのためと、苗を田村市に移動準備として、苗木の選別作業を行った。

大樫446本、小檜大樫546本、楓65本、檜276本、樺9本、樺39本計1394本の移動まで完了。

12月7日(土)

参加者 添田、長瀨町シルバー

2名、野澤

覆屋の撤去作業

藪のかかっていた苗の養生用の覆屋の撤去を行う。腐食が激しいので、再利用をあきらめ穴を掘って、木材は土に分解を任せることにした。

12月8日(日)

参加者 川村、宇土澤、宇土澤奥さん、並木、高岡、白石、守谷、小林、鍛代、大池、江藤、鈴木、添田、野澤

冷蔵苗づくりと田村市への苗の積み込み作業

最初に、和名倉への移植予定の樫の冷蔵苗をつくる。いつものように、掘り起し、土を落として根切りし、ビニール袋にすっぽり入れて梱包する

19袋、54本を冷蔵庫に入れる。次に、田村市に移植する苗を、ワンボックスのトラックに積み込む。

ポット苗1338本を横向きに積み重ね、もう1台には、樫の苗を200本積み込む。

作業は順調に進み、午後、覆屋の跡地の草と除草シートの撤去を行った。

多数の参加者により、順調に完了しましたこと、感謝申し上げます。



3月16日(日)

参加者 岡田、大池、中川、小林、川村、高岡、深田、野澤

樫の畑の明け渡しのため移植作業

日大から譲り受けたの苗木を、苗畑の南、神社側への移植作業。ミニユニポで穴を掘り、高く伸びた樫の苗を移植、その後20年生の樫を4列に移植。

山に植林される日を待ちます。長樫の苗畑は、南側の一部を借りて存続することとなりました。





2014年 活動スケジュール

活動への参加をご希望の方は、事前に事務局まで御連絡ください。

	総会・理事会	フィールド活動		苗づくり	エコサロン他
		和名倉	宝登山/大陽寺		
4月					◆東日本大震災被害復興森林復旧事業支援植樹活動 福島県田村市 日時：4/5(土)～6日(日) 集合：大宮駅西口
5月	■会報27号発行 ●5/19(月)理事会 場所：埼玉教育会館	◆第34回和名倉山ワーク 日時：5/24(土)～25(日) 集合：8：30/西武秩父駅			
6月	■第7回通常総会・東日本大震災復興支援報告会 日時：6/8(日)午後2時30分から 場所：あけぼのビル 14：00 開場 14：30～15：20 第7回通常総会 15：30～16：30 東日本大震災復興支援 福島県田村市百年の森づくり報告会 16：45～18：30 懇親会		●太陽寺ソル伐り・ネット巻き作業 日時：6/21(土)～6/22(日) 集合：8：30/西武秩父駅		
7月					
8月			●宝登山下草刈り作業 日時：8/24(日) 集合：9：00/宝登山 ロープウェイ駅前広場		
9月					
10月	■会報28号発行	◆第35回和名倉山ワーク 日時：10/25(土)～26(日) 集合：8：30/西武秩父駅			
11月	●11/17(月)理事会 場所：教育会館	☞仁田小屋小屋じまい 日時：11/15(土)～16(日) 集合：8：30/西武秩父駅			◆第19回冬の公開講座 日時：11/8(土) 会場：大宮ソニックシティ
12月				◆長瀬苗畑作業 フナ苗堀取り、冷温保存 日時：12/7(日) 集合：9：00/野上駅	

和名倉百年の森 第27号 2014年5月1日発行

発行者：NPO法人百年の森づくりの会 坂本和穂

NPO法人百年の森づくりの会 事務局

〒330-0063 さいたま市浦和区高砂三丁目12-9 農林会館地下1階 TEL/FAX：048-831-1469

http://www.100nen-forest.org e-mail: info@100nen-forest.org